

吹田市環境白書 2024

WHITE PAPER
ON THE ENVIRONMENT
IN SUITA 2024

はじめに

国連気候変動枠組条約（COP28）が2023年（令和5年）11月に開催され、パリ協定の目的達成に向けた世界全体の進捗を評価するグローバル・ストックテイク（GST）に関する決定、ロス&ダメージ（気候変動の悪影響に伴う損失と損害）に対応するための基金を含む新たな資金措置の制度の大枠に関する決定の他、緩和、適応、資金、公正な移行等の各議題についての決定がそれぞれ採択されました。

GSTの成果として採択された決定文書には、1.5度目標達成のための緊急的な行動の必要性、2025年（令和7年）までの排出量のピークアウト、全ガス・全セクターを対象とした排出削減、各国ごとに異なる道筋を考慮した分野別貢献（再エネ発電容量3倍・省エネ改善率2倍のほか、化石燃料、ゼロ・低排出技術（原子力、CCUS、低炭素水素等）、道路部門等における取組）が明記されました。また、パリ協定第6条（市場メカニズム）、都市レベルの取り組み、持続可能なライフスタイルへの移行等の重要性についても盛り込まれました。

また、世界気象機関（WMO）は2024年（令和6年）3月、「世界気候の現状2023」の確定版を発表し、2023年（令和5年）は、世界の平均地表面温度が産業革命前の基準値から1.45度上昇し、観測史上最も温暖な年となったと伝えました。

2023年度（令和5年度）に環境省と国立環境研究所が取りまとめた、2021年度（令和3年度）の我が国の温室効果ガスの排出・吸収量は、11億2,200万t（二酸化炭素（CO₂）換算）で、前年度比で2.0%（2,150万t）の増加となりました。排出量は11億7,000万tで、2020年度（令和2年度）比で2.0%の増加となりました。

新型コロナウイルス感染症に起因する経済停滞からの回復により、エネルギー消費量が増加したこと等が主な要因と考えられ、このトレンドについては、ほかのG7各国においても同様であることを確認しました。また、吸収量は4,760万tで、4年ぶりに増加に転じました。森林整備の着実な実施や木材利用の推進等が主な要因と考えられます。

これらの状況を踏まえ、喫緊の課題である地球温暖化問題を解決するため、市民・事業者・自治体が「自分事」としてこの状況を深く受け止め、ライフスタイルや事業活動の転換を図ることが必要不可欠であり、自治体は効果的な対策をすみやかに実行することが求められます。これを受け、西宮市、尼崎市、豊中市、吹田市の4市（NATS）は府県を超えて広域的に施策を展開し持続可能な社会を実現するため、2021年（令和3年）7月29日に「地球温暖化対策の自治体間連携に関する基本協定」を締結し、給水スポットの普及促進など様々な取組を進めています。

本書は、本市が実施している環境施策の進捗状況と環境の状況についての報告書です。本書をとりまとめることで、環境基本計画に掲げた目標の達成度合いを確認し、施策の見直しや充実を図ります。あわせて、身近な環境に関心を持ち、自らのライフスタイルを環境の視点から見直すきっかけとなれば幸いです。

目次

第1章 吹田市の環境政策	1
第2章 目標の達成に向けた重点戦略	3
第3章 目標達成への施策の展開	
第1節 エネルギー	7
再生可能エネルギーの活用を中心とした低炭素社会への転換	
第2節 資源循環	15
資源を大切にす社会システムの形成	
第3節 生活環境	19
健康で快適なくらしを支える環境の保全	
第4節 みどり・自然共生	27
自然の恵みが実感できるみどり豊かな社会の形成	
第5節 都市環境	31
快適な都市環境の創造	
第4章 環境基本計画に基づく進行管理	37

—環境白書の編集について

この環境白書は、吹田市環境基本条例に基づいて毎年発行しているものです。

2024年版(令和6年版)は、データや集計については、2023年度(令和5年度)における実績をとりまとめました。それ以外の記述は、2024年(令和6年)10月初旬時点での実績です。

本書は、現在課題となっていることにスポットをあて、まとめています。詳細なデータは資料編にまとめ、吹田市ホームページに掲載しています。本書とあわせてご活用ください。